

校 章 【昭和57年9月28日制定】



知育、徳育、体育の充実をたくましく三方に伸びる若葉に託し、台座のペン
は若人の学びとる意欲をシンボライズしたものである。

中心から三方向、六方向への放射線状の模様は十中生の母体となった三中、
六中を示している。 <学校沿革誌より>

校 歌 【昭和58年9月27日制定】

作詞 真壁 仁
作曲 丸子 喜一

山めぐる国のもなかのわが学園
われらはめぐりあった
よき師 よき友
ここは心の出合いの世界
ここは若いのちをきたえる
青春のふるさととなった
風薫る学園でわれらは学んだ
優しさが力であることを
つくるよろこび友愛の絆
知識は無限の道標であることを
人生は美と真実を求めるつきない旅なのだ
ああ 明日のために今日もきらめく
われらの学園

自由律詩型による試みであり、県内でも希有のものとなっている。特定の
地名等は特に表現なく、人生とは何かを問いかけており、中心は「やさしさが
力」となるようまとめている。発表の折、作詞者の真壁 仁氏は病気入院中
であり遺作となった。

<学校沿革誌より>